

空き家、移住者情報の可視化と今後の展開と課題について

～データベースをフル活用した可視化がもたらす移住促進事業の新たな価値創造の検討～

北海道 恵庭市
企画振興部 まちづくり拠点整備室
まちづくり推進課



i-都市交流会議2022

1

1. 恵庭市の都市計画①

恵庭市は、東京以北最大の都市「札幌市」と、北海道の空の玄関となる新千歳空港がある千歳市の中間にある人口約7万人の街として、都市計画においては千歳市と恵庭市を合わせた「千歳恵庭圏都市計画」として区分されている線引き都市です。
(R2年度：「整備、開発及び保全の方針」及び「区域区分の見直し」済)



図1 恵庭市周辺の位置図

i-都市交流会議2022

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

2

2. 恵庭市の都市計画②

将来のまちづくりの方向性を示す【R3年版都市計画マスタープラン】では、前回計画(H23年)のJR3駅中心としたコンパクトシティを維持に加え、昨年オープンした花の拠点“はなふる”を中心に新たなブランドづくりとして「東西軸」を設定するなど魅力あふれる花のまち えにわを推進しています。



i-都市交流会議2022

3

3. 現状の課題（移住促進事業）

恵庭市の移住促進事業は以下の図3のとおりです。
主な課題は各種取り組みを積極的に取り入れて進めてきたものの全国的には知名度が低いことや新たな取り組みへのアプローチなどが挙げられます。立地の良さだけでは訪れてみたい、住んでみたいことには繋がらないため、恵み野地区を中心とした“はなのまち”を付加価値として子育て層をターゲットに定住につながる施策を進めることが肝要と考えています。

また、関係人口の増加として、シティセールス、シティプロモーション、観光等との横の連携強化も重要と考えています。



i-都市交流会議2022

4

4. 空き家数と空き家年数の可視化事例①

恵庭市では空き家の情報を恵み野地区に限定して毎年独自調査しており、今回空き家データを用途地域をベースに可視化することでどう見えるか新たな試みとして可視化を実施。



図4 空き家数

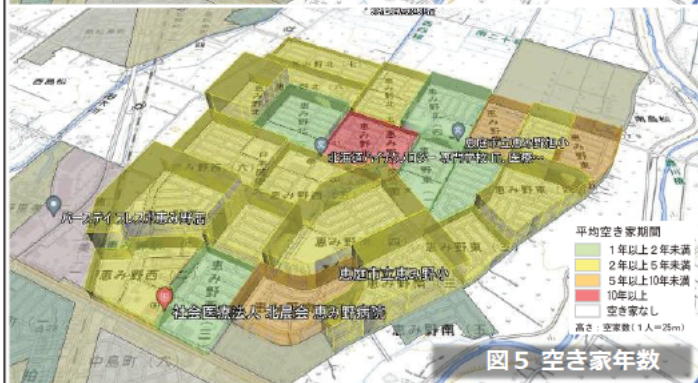


図5 空き家年数

本地区は1980年代「恵庭ニュータウン恵み野」として恵み野駅の誘致や駅前の商店街を中心に低層住宅が立ち並ぶ閑静な住宅地域です。

現在、開発から30年が経過してインフラなど徐々に老朽化が進んでおり住宅の住み替えも進んでいる状況です。今回、移住促進事業で所有しているデータベースの中から空き家数、空き家年数を可視化したことで視覚的に状況を把握することができました。

これまで、各地区毎に件数を示したグラフにて報告していましたが、今後は可視化した資料なども合わせて用いることでより伝わりやすいものになると思います。

一方で課題として、現在導入中の統合型GISの有益な情報（インフラなど）を3次元に表現することが手軽に出れば誰もがリアルなまちの実態を共通イメージとして持つことができ、今後活用の幅がより広がっていくものと感じています。

今後も継続してデータを取り続けるとともに、新たな分野にもアンテナを張ってよりよい情報を集めていきたい。

5. 移住された方の地域の可視化事例②

恵庭市では移住の相談をされた方を移住者としてカウントしてデータベース化し、今回用途地域をベースに可視化しています。



図6 移住者の分布

利便性が高い恵庭駅周辺をはじめ、低層住宅（一戸建て中心）が立ち並ぶ恵み野地区、農ある暮らしができる郊外地区など、バランスよく移住された方が分布していることが可視化により一目にわかるようになった。

今後はまちづくりの施策が与える影響などの関係性に注視しながら継続してデータ収集を行うとともに、現状のデータベース（統合型GIS等）をリアルに可視化していくことで地域の方々によりわかりやすい情報提供のサービスができるものと考え、地域の方々ともまちの将来像をわかりやすい図で共有しながら、本市に興味のある方に対してまちづくりの取り組みをわかりやすい情報を視覚的に発信することにより多方面で大きな効果が生まれるものになると思います。

6. 考察（可視化により気づいた点）

- ☑データベースの情報を“可視化”することにより誰しもが現状を把握できるわかりやすい資料となった。
- ☑地区毎の人口、高齢化率、空き家率、建築年数、開発当時の計画など重ねてニュータウンのオールドタウン化を表現することでもっと理解が深まる資料になるものと感じました。
今後は、一般ユーザー、市（都市計画部門等）、企業など様々なニーズに対応した資料を提供することが求められていることを改めて認識できた。
- ☑言葉では伝わりづらい地区毎の特色を用途地域と重ね合わせることでまちづくりと併せてイメージを共有できる貴重な資料となった。
- ☑移住検討者への説明資料だけではなく、戦略的にまちづくりの施策を進める上でデータベースの積み重ねと可視化することへの重要性を改めて理解することができた。
- ☑現GISでは2次元のみ導入しているが、これから3次元化がスタンダードとしてオープンデータしていくことが他事業でも求められていることを認識できた。
- ☑デジタル化には興味があるものの実際にやるとなるとハードルが高いため、もっと気軽に体験できる場所など提供できれば導入も早くなりよりよいサービスが提供できる。



恵庭市移住PRキャラクター 左から“えにわん” “ままわん” “じゅにわん” “はばわん” “ちわわん”

i-都市交流会議2022

7

北海道 恵庭市

都市の紹介

「ガーデンフェスタ北海道2022」の紹介



i-都市交流会議2022

8